

グローバル人材とは

福本 智也

Tomoya FUKUMOTO

機械システム工学科 3年

1. 渡航した目的

アメリカの企業先に行くことで、自分には無かった新たな考え方や価値観の違い、物事を様々な観点から見るができるようにすることを目的として、日々の人間形成を大事にしていき、コミュニケーションを取ること。

2. 体験記による考察

2.1 セミナーについて

私が最も印象深く残っている体験としては、デザイン思考という考え方や日本の企業の現状の2つです。まず初めに、デザイン思考について着目する。デザイン思考とは5段階のステップを繰り返すことで革新的なアイデアを生み出すための考え方のことを示しており、私はこの段階において2番目に当たる問題定義が一番大事ではないかと考えられる。理由は、逆向き設計とも言われるが、その問題に対して最終的なゴールを明確にすることで、デザイン思考のフィードバックがより効率的、且つより革新的な考えが生み出せると感じた。この考え方は小野孝太郎さんという方のセミナーを聞いた時に、デザイン思考デザイン思考と上手く繋げることができると私は感じたので、今後デザイン思考を取り入れていく際には、まずは問題を定義してから何事も取り組んでいきたいと考えている。次は日本の企業日本の企業の現状について着目する。渡航する前は、私は日本のことを先進国の1つであると感じていたが、実際シリコンバレーに来て、そこで働いている人たちの大部分は、日本は先進国ではなくなっているという意見が多かったことに驚きを隠せなかった。そのように言われる理由としては、日本はイノベーションをすることよりも安全志向を求めている

ため、シリコンバレーと比べると、アクションを起こさないようにしている。それにより、日本の技術にはイノベーションが起きづらくなり、遅れているのが現状だ。それに加えて、日本はベンチャー企業に対する投資もアメリカと比べると非常に低いことも問題である。日本が今後どうするべきか考えたとき、私はベンチャー企業に対する価値観を上げることも1つの手でもあると感じるが、大企業がイノベーションを起こすべきと私は感じた。理由としては、大企業は既存事業によりベンチャー企業と比べると資金はあるため、その資金から新規事業を展開し新たなイノベーションを起こすことができると考えられる。だから、先進国に再び戻るためにはこのやり方が1番効率的であると考えられる。

2.2 企業先にて学んだこと

私は Air Accord というパイロットスクールの訓練機を修理する整備所で2週間ほど働いた。この2週間で感じた日本人とアメリカの人たちの仕事に対する価値観の違いを以下まとめる。アメリカの人たちは何かの物事に対して考えることであったり、作ったりすることであったりする時、長期的に考えながら結果を出している、あるいは物事を捉えていると感じられる。日本人とアメリカの人たちの最も異なる点としては、この考え方の違いではないかと私は考える。AIR ACCORDの校長である脇田さんも私に話してくれたが、アメリカの人たちはランナーで例えると長距離選手のように一定のリズムで何かを行っているのに対して、日本人は短距離選手のように短時間で一気に何かに対して行ってしまう。仕事を例に出すとしたら、日本人は一気に仕事をして今ある現状の問題を現在進行形の形として対象にしているのに対して、アメリカの人たちは今ある仕事を長期的にとらえて、今ある現状の問題を未来系の形として対象にしていると考えられる。次にアメリカの人たちが何を中心に生活をしているのかについてまとめていく。アメリカの人たちは仕事よりもプ

プライベートを重要に考える人たちが多く、仕事は生活の1部として考える人たちが多く、このことから、アメリカの人たちはプライベートを重要視して、日本人は仕事を重要視していることが分かる。それに加えて、アメリカの人たちの仕事に対する考え方を少し脇田さんと話してみたところ、アメリカの人たちは自分がやりたいことを言えばやらせてもらえるが、その分、有言実行しなければ信用してはくれない。しかし、失敗してもそれに対してやってみたことに称賛を与える。私も実際それを体験しているので、アメリカの最も尊敬すべき考え方だと私は感じる。日本は結果主義だが、失敗したことに對して非難を浴びせるので、日本にも失敗したことに對する考え方を見直してもらいたいと思った。

ここまで、アメリカと日本の違いについてまとめたが、考え方や価値観が全く異なっていると常々感じさせられる2週間でありました。なかなかこの2週間でアメリカの人たちと日本人の考え方を上手く合わせて、新たな考え方を生み出すことはできませんでしたが、日本とアメリカの、それぞれの考え方の違いを理解することが肝心であると私は思ったので、アメリカの価値観を少しでも理解できたのは私にとって新たな考え方を生み出すための一歩として前に進むことができたと思います。

2.3 ホームステイについて

非常に良い経験になりました。初めて英語ばかりの生活を送りましたが、わたしはアメリカではたくさんの人と喋りたいと思っていたので、常にホストファミリーがいるリビングで報告書やテレビを見ていました。そのため与えられた部屋に居たのは、本当に寝るときぐらいでした。ですが、英語を話すこ

とにより、もっと英語をうまく話したい、より深く話を理解したいと思った時がたくさんあったので、自分にとっては今後英語を勉強していく際の良いきっかけであったと思います。

3. 今後の課題

私は何か問題が発生して解決できない時があると、違う観点からアプローチして問題を解決しているといういつも考えていましたが、行動はできても、知識がほとんどないのでなかなか考え方を変えることが出来ませんでした。今回のプログラムにおいて、実際にシリコンバレーで働いていた人の考え方や、今実際に実習先で学んだ日本人とアメリカの人たちの考え方の違いなど、今までなかった私の知りたいことがたくさんありました。それらを全て身につけたいと思っているので、まだまだ考え方を全てまとまっているわけではないですが、ほぼ達成はできています。あとは、いかにこれらの考え方をうまく使い分けできるかが今後の課題だと思っています。

4. グローバル人材とは

私がこのグローバル人材育成プログラムに参加する前は、色々な考え方や視点を有している問題を解決できる人のことを言うのではないかと考えていたが、参加した後では、異国の文化や価値観を理解して、海外の人たちとうまく仕事をやっていける人たちのことをグローバル人材というのではないかと感じました。今後、日本はグローバルに企業は展開していき、必ず海外の人達と仕事をする時があると考えられます。その時に、今回の体験を生かして仕事をしていければ良いと考えています。